



わかやま

No. 75

和歌山県精神保健福祉センター

2018年5月

「県障害福祉課長に就任して」

和歌山県障害福祉課 更家 広一

本年4月に障害福祉課長を拝命いたしました更家広一です。

障害福祉課には平成20年度から3年間、こころの健康推進班で勤務した経験があります。平成18年度に、それまで障害種別ごとに異なる法律に基づいて自立支援の観点から提供されてきた福祉サービス等について、共通の制度の下で一元的に提供する仕組みが創設され、これに伴い組織的にも健康対策課からこころの健康推進班の業務が移って、3年目ということも、まだまだ、新制度への移行に向けた課題への取組が行われている頃でした。また、平成16年に精神疾患を正しく理解し、新しい一歩を踏み出すための指針として「こころのバリアフリー宣言」がされ、本格的に、全国民を対象として、精神疾患や精神障害のある人に対する正しい理解を促すことが始まって、4年目を迎える頃でもありました。



あれから10年が経って再び障害福祉課に着任して感じることは、法律が変わったり、新たな法律が出来たりと、障害者施策を取り巻く状況が大きく変化しているということでした。和歌山県においても、昨年、和歌山県手話言語条例が施行され、手話の普及・習得の機会の確保により、ろう者とろう者以外の人共生することのできる地域社会の実現を目指すこととしていますし、同年、策定された和歌山県長期総合計画では、障害のある人が社会活動に参加し、自分らしく生きることが出来る環境づくりを進めるとともに、自立した生活を行うことができるよう支援することで、障害のある人とその家族が安心して暮らせる社会を実現し、また、全ての県民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指すこととしております。

さらに、今年には、和歌山県自殺対策計画、紀の国障害者プラン2018を策定しており、これらの条例や計画に基づき、具体的な取組を進めていく1年目の重要な年でもあると考えており、これから、一つひとつ着実に課題解決に取り組んでいき、障害のある人やその家族が安全安心な生活を実感いただけるよう頑張っまいります。

もくじ

- P1 県障害福祉課長に就任して
- P2 シリーズセンター長だより^③
- P3 平成30年度精神保健福祉センター相談案内
- P5 グループ活動紹介の募集・研修案内
- P6 はーとふるネットワーク／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階
TEL073-435-5194 FAX073-435-5193



恩師の心遣い

前号のこの欄で紹介させていただいた拙著『思春期の育ちと高校教育—なぜみんな高校に行くんだろう?』（福村出版）にまつわる後日譚です。

本書は生徒数の減少で廃校の危機に直面している北海道の北星学園余市高等学校の応援の一環として書き下ろしたこともあり、今年の2月から3月にかけて大阪、札幌、東京で講演会を開催して、この学校の教育実践の意義についてお話しをさせていただきました。このうち2月4日の札幌での講演会には、和歌山県立医科大学の名誉教授である平尾幸久先生が来てくださり、ほぼ40年ぶりの再会ということになりました。平尾先生は和医大の1、2年生のときに生物学を教えていただいた恩師ですが、学生の面倒見がよく、とても人気のある先生でした。定年退職後も和歌山市内にお住まいでしたが、2年前に出身地である北海道に戻られ、今回は北海道新聞に私の講演会のことが掲載されたのをご覧になられて、わざわざ足を運んで下さったとのことでした。その日はゆっくりお話しする時間を持つことができませんでしたが、その後もメールのやりとりをさせていただき、3月に北星余市高校の卒業式で再び北海道に行ったときに札幌で一献を傾けながら昔話に花を咲かせることができました。何よりも私の名前を見つけて講演会に来てくださった心遣いに感激しましたが、昔の話をしている中でいろんな学生の名前を覚えていらっしゃることに大変驚きました。思春期の本を書いたことで恩師と再会し、思いがけず自分自身の思春期にタイムスリップするという体験をさせていただくことになりました。とまれ、このご縁に感謝です。



平成30年度 精神保健福祉センター相談案内

思春期・青年期 特定窓口相談窓口（要予約）

専門の医師による思春期・青年期の相談窓口を設置しています。
思春期・青年期に特有の悩みや精神疾患、不登校やひきこもりなどの相談に応じます。

対 象 思春期・青年期の問題を抱えるご本人やご家族
場 所 精神保健福祉センター
申し込み 事前に予約が必要です。
相談料 無料



精神保健相談

精神疾患、アルコール問題、ひきこもり等のこころの健康に関する相談に応じます。

★面接相談（要予約：073-435-5194）

受付時間：平日 9:00-17:45（土日、祝祭日、年末年始を除きます）

場所：和歌山県精神保健福祉センター

★電話相談（こころの電話：073-435-5192）

平日 9:30-12:00、13:00-16:00（土日、祝祭日、年末年始を除きます）



自死遺族相談

大切な人を自死で亡くされた方（家族・友人等）を対象に相談に応じます。

場所 和歌山県精神保健福祉センター

日時 第4月曜日 13:00~17:30

（要予約：073-435-5194・073-424-1700「はあとライン」）

平成30年4月23日、5月28日、6月25日、

7月23日、8月27日 10月22日

11月26日

平成31年1月28日、3月25日

（平成30年9月、12月、平成31年2月はありません）



わかちあいの会和歌山 うめの花のご案内

わかちあいの会和歌山 うめの花

対象 大切な人を自死で亡くされた方（家族・友人等）

参加費 200円（お茶やお菓子代として）

一時保育 あり（1週間前までにご相談ください）

和歌山会場（場所 和歌山県精神保健福祉センター）

平成30年4月21日（土）13:30~15:30、5月18日（金）19:00~20:30

6月16日（土）13:30~15:30、8月18日（土）13:30~15:30

10月20日（土）13:30~15:30、12月15日（土）未定

（♪講演会・音楽会/わかちあいの会開催予定♪）

平成31年2月16日（土）13:30~15:30

田辺会場（場所 田辺市民総合センター）

平成30年7月7日（土）13:30~15:30





青年のつどい フリースペース

対 象 ひきこもりの状態にある方、人とかかわることに抵抗のある方

開催日 毎週火曜日 13:00~16:00 (都合により変更あり)
利用時間内の、好きなときに来て、好きなときに帰ることができます。

場 所 精神保健福祉センター プレイルーム

参加費 無料



ひきこもり家族のつどい

対 象 “ひきこもり” や “孤立” でお悩みのご家族

日 時 毎月第3水曜日 13:30~15:30
平成30年 4月18日 5月16日 6月20日
7月18日 8月15日 9月19日
10月17日 11月21日 12月19日
平成31年 1月16日 2月20日 3月20日

場 所 精神保健福祉センター プレイルーム

参加費 無料

薬物依存相談



対 象 違法薬物、危険ドラッグ、処方薬などの薬物依存にお悩みの本人、家族

＝本人＝

(個別相談)

日 時 月～金(祝日除く)(要予約)

(グループセッション)

時 間 木曜日13:30-14:30(祝日除く)(要予約)

場 所 精神保健福祉センター

＝家族・知人＝

日 時 月～金(祝日除く)(要予約)

こころのフェスタ2018

グループ活動紹介の募集

平成30年11月24日(土)に和歌山ビッグホエールにて、『こころのフェスタ2018』が開催されます。

当日、会場ステージにて、精神障害のある人たちのグループ活動紹介などを通して、精神障害のある人たちのことを、みなさんに広く知っていただくことを目的としています。

内容は、グループの活動の紹介、音楽、ダンスなどのパフォーマンスなど、観客のみなさんと楽しめるようなものであればOKです。

日頃のグループ活動を舞台上で発表していただくよい機会です。ぜひご応募をお待ちしております。



目的：精神障害者の人権啓発

日時：平成30年11月24日(土) 13:00~13:10

会場：和歌山ビッグホエール アリーナ

内容：グループ活動紹介の語り及びパフォーマンス

(合唱、演奏、コント、手品、ダンス等)

募集数：1グループ *応募多数の場合は、選考予定

応募先：和歌山県精神保健福祉センター

電話：073-435-5194 FAX：073-435-5193

応募締め切り：平成30年6月28日(金)



和歌山県精神保健福祉協会 講演会



「この島で生まれて良かった この島で生んで良かった」

～地域で働き、地域で暮らすために～

講師 社会福祉法人みやこ福祉会 理事長 いしみね ひろし 伊志嶺 博司 氏

「私たちが目指すのは地域で働き、地域で暮らす障害者を支援すること。この島で生まれてよかったと実感できる環境づくりです。」・・・昭和61年に知的障害施設の兄弟姉妹の会の結成から始まり、平成13年社会福祉法人みやこ福祉会みやこ学園の設立、パン工房、野菜ランド、グループホーム、障害者就業・生活支援センターと事業を拡大し、32年間障害者のため、地域の環境整備を精力的にすすめておられる。

日時：平成30年6月26日(火) 14:00~15:00

場所：県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9F 会議室A 和歌山市手平2丁目1-2

対象：精神保健や講演テーマに関心のある方(事前申し込みが必要です)

参加費：無料

申込み先：精神保健福祉センター(電話：073-435-5194、FAX：073-435-5193)



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、紀南こころの医療センター 看護師 吉本 明美 さんです。

はーとふるネットワーク

—看護師になられたきっかけは？

子供の頃に看護師さんに憧れて・・・というのではなく、健康で病院とは縁のない生活をしていました。高校生になり進路決定する際に「看護師の仕事は大変だろうけど、自分のためになる仕事だから、絶対に嫌でなければ考えてみては。むいてると思う。」という言葉に看護師という選択肢が増えたのがきっかけでした。

働きはじめは患者様への関わり方等で悩みもありましたが、気づけば20年余りが過ぎ、看護師を選択してよかったと思っています。

—この仕事のやりがいや楽しみはどのようなことですか。

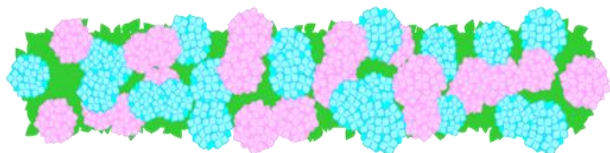
患者様の笑顔を見ることです。退院時はもちろんですが、長期入院になる患者様もいらっしゃいます。その方々には入院という制限された中で、少しでも安楽に生活できる様に援助し、笑顔を出せる環境にしていきたいと思っています。

病棟スタッフが皆楽しそうに働いていることもあり職員・患者共に、毎日笑顔は絶えません。

—仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

基本的なことですが、患者様のストレングス（その人の持つ強み）に着目し援助することです。できることの確認をし、主体性を持ってもらうように心がけています。何かを決める時など、迷うことも多くあります。その時には例を出して、その中で患者様がどのように考えていくかを大切にしています。

あと、笑顔はとても大切だと思っています。



編集後記

今回編集の担当となり、パソコンで不慣れな編集作業に悪戦苦闘し、そのほかにも思いもよらないできごとに次々と遭遇しとまどう日々です。そんな状況で、昨秋当センターの講演会にお招きいたしました「べてるの家」の「今日も、明日も、明後日も、順調に問題だらけ」という味のある言葉をたよりに、いろいろな方のご協力をいただき、ようやく皆様にお届けできるまでたどりつきました。今後ともおつきあいのほどどうぞよろしくお願いいたします。



—紀南こころの医療センターのPRをお願いします。

和歌山県南部に位置し「やさしさをもって信頼と満足の得られる医療を行います」を基本理念にしている紀南地方の中核病院です。診察科は精神神経科、部署として、看護部・訪問看護・作業療法室・デイケア・地域医療福祉連携室があり、各部署連携して入院から退院、地域生活で安心して暮らせるように援助しています。

また、看護相談として月三回（金曜日）に、患者様がどのように生活していきたいか、ご家族はどのようにサポートしていくかについて、患者様とご家族に対して看護師による相談を行っております。

—今後の抱負を教えてください。

入院中や退院後も安心して生活できるように日々患者様と関わっていきます。

そのためには日頃から社会情勢・医療・看護・福祉の動向には注意し、情報収集をしていく事が大切です。またそれを看護実践に活かしていきたいです。

—次の方のご紹介をお願いします。

次回は前回投稿者の櫻葉さんからの紹介で、和歌山県立高等看護学院の水主雅人さんです。

水主さんよろしく申し上げます。